

グリーンインフラとは

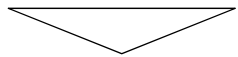
社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組

グリーンインフラ推進戦略：国土交通省 令和元年7月



本市では、すでにこの考え方を取り入れ施策展開を図ってきている

今後は仙台ならではの取組により、本市の強みを伸ばし発信していくことが必要



本市の特徴、個性等

- 市域には奥山・里山から沿岸部まで、骨格となる多様なみどりが存在し、それらを繋ぐよう河川が流れている。
- 杜の都の環境をつくる条例により市街地周縁のみどりを守り、広瀬川の清流を守る条例では流域のみどりと水質を守る等、様々な制度を活用し、水循環に資するみどりの保全・創出が進められた。
- これらにより、市域全体にみどりによる水循環のシステムが構築されてきたと捉えることができる。



奥山：水源林



里山：保存緑地



市街地：公園



市街地：街路樹



田園：農地、海岸林



河川

○かつては城下町の屋敷林や社寺林等で都心がみどりに包まれた姿は、現在は街路樹や公園緑地等のみどりが織りなす緑の回廊に引き継がれている。

○これまで取組んできた街路樹の育成や、定禅寺通りでのオープンカフェや光のページェント等の公園緑地の利活用によりにぎわいをもたらす等、今後本市が都市間競争に残っていくための比較優位になっている。



青葉通り



勾当台公園周辺



東二番丁通り



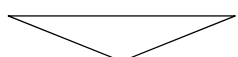
SENDAI光のページェント



夏まつり仙台すずめ踊り



仙台・青葉まつり



取組の視点

①健全な水循環を維持・増進するみどり

これらの骨格となる多様なみどりの保全・創出を、より一層進めていくことで、水害の軽減、水源・地下水涵養、水質浄化、利水、微気象の緩和等の機能を維持・増進させ、安全安心で住みやすいまちを維持する。

②都心の活力を生み出すみどり

これらのみどりの適正な維持管理はもとより、定禅寺通りや肴町公園等のみどりの利活用を進めることや、建築物での質の高い緑化等により、景観の向上、レクリエーション、微気象緩和、健康増進などの機能を維持・増進させ、働きたい、暮らしたいと思われる「選ばれるまち」へと深化させていく。



対応する施策の柱

1. みどりで自然災害に備える
2. 水循環を支えるみどりの基盤をつくる



対応する施策の柱

5. みどりで人、企業を惹きつけるまちをつくる
6. みんながみどりを享受できるまちをつくる